

## 努力が実るその瞬間に

岡崎市立東海中学校 鈴木 薫子

連日の猛暑の中、陸上の県大会が行われました。本校の陸上部に所属する A さんには、100m ハードルと四種競技の二種目において全国大会出場への期待が高まっていました。A さんは昨年度も2年生ながら100mハードルで県大会に出場しましたが、コンマ数秒というところで全国大会への出場を逃していました。そのため、今年の大にける思いは並々ならぬものがありました。

A さんは本校女子陸上部のキャプテンでもあります。県内でもトップの実力をもつ彼女が、誰よりも早く準備に取り掛かり、誰よりも前向きに苦しい練習に臨みました。そんな彼女の姿に部員のみならず我々顧問も励まされ、応援したくなるのです。

大会当日、A さんは100mハードルの予選を通過し、いよいよ決勝となりました。新型コロナウイルス感染拡大予防のため、部員は会場に入ることができません。託された思いを背負って、A さんはスタートラインに立ちます。出発の号砲が鳴り響き、今までで一番のスタートを切りました。10台目のハードルを跳び越えたとき、先頭を走る選手に競り負けていました。必死の形相で走る A さんに、私も握る手に力が入ります。ゴールに飛び込み、電光掲示板に結果が表示されると、なんと自己ベストで優勝。全国大会出場を決めました。



努力はいつでも結果につながるとは言い切れません。しかし、ときに訪れるこういった瞬間に立ち会えると、子供がもつ可能性の大きさに改めて気づかされます。顧問としてできることはわずかもかもしれませんが、子供たちのもつ可能性を引き出せるような魅力的な指導を展開できるように、私自身の研鑽を重ねていきたいと強く感じました。

## 「想い」と「感謝」

岡崎市立甲山中学校 佐藤 諒

甲山中学校男子バスケットボール部の今年の目標は、昨年の愛知県3位の「先輩たちを超える」ことである。この目標を達成するには多くの努力を必要とし、半端な気持ちでは到底達成できる目標ではなかった。

チームが発足してから、思い通りの結果を残すことができず、生徒間で意識の差が生まれていた。また、怪我や病気でベストなメンバーで大会に挑むことができず、チーム状況が良かったことはほとんどなかった。そんな中でも、試合前になると OB が力を貸してくれたり、バスケ経験者の先生方が試合相手をしてくれたりと、たくさんの方々の協力もあり、目標を達成するために、常に前を見て必死に練習に取り組む生徒が多かった。結果、市長杯、西三大会を2連覇し県大会出場を果たした。残念ながら「先輩たちを超える」という目標を達成することはできなかったが、この仲間と一緒に少しでも長くバスケがしたいという「想い」と、日頃の「感謝」がいろいろな場面で形として表れた。

普段の学校生活を見ていると、あまり目立つこともなく、学級の中でも前に出て活躍する生徒は少ない。そんな彼らが、ベンチに戻ってくると必死になって話し合いをしている。仲間がシュートを決めた時に、ガッツポーズをして称賛を仲間に伝えている。試合終了後に戦った相手と笑顔で称え合っている。市長杯、西三大会、そして県大会と試合をする度に、たくましく成長していく姿はとても頼もしく思えた。



現在部活動は過渡期を迎えている。どのような形になっても、バスケットボールやスポーツを通して「仲間と共に、同じ目標に向かって、夢中になって取り組む」ことの素晴らしさを伝えていきたい。そしていつも素晴らしい経験をさせてくれる生徒達や保護者の皆様、同僚の先生方に「感謝」をし、自分自身これからも成長していきたい。